

第32回

全道医家囲碁大会

名人戦は樋口6段が5連覇(通算11度目)！
 本因坊戦Aクラスは青木5段が初優勝
 本因坊戦Bクラスは竹内2段が初優勝！

第32回全道医家囲碁大会を終えて

全道医家囲碁連盟常任幹事

前川 隆



例年の如く第32回本大会が平成17年10月30日(日)、札幌市医師会館で開催されました。当日の天気予報は寒冷前線の北海道通過によりぐっと寒くなり雪になるかもしれないとのことでしたが、さほどのことはありませんでした。

今年も昨年と同様前夜祭として大会前日に、道内の女流アマ棋士の会の「北星会」のメンバー12名の方々のご参加をいただいて、北海道医師会館で午後2時より、ペア碁として開催されました。相手の読みだけでなく、自分の方の女性の読みも読まなくてはならず、なかなか大変なものです。2回戦で終わり懇親会の店に移りましたが、ペア碁はプロでも大会が開かれるほど盛大になってお

ります。

本大会では若浜三郎副会長の司会により午前9時15分から開催されました。昨年より選出されております三宅直樹会長の「低段位の会長ですので皆様多数ご参加ください」の挨拶に始まり、上村収蔵プロ棋士(6段)の紹介、南田英俊常任幹事の競技ルールの説明などがあり、対局が始まりました。名人戦に12名、本因坊戦Aクラス12名、同じくBクラス8名、地方棋士の指導碁1名の計33名の参加をいただきました。

名人戦は高橋成夫監事の提案で、昨年と異なりシード4名にしてトーナメント方式にしました。シード組は前回、前々回の成績を参考にして決めました。優勝決定戦は高橋成夫7段(札幌市医師会)と樋口晶文6段(札幌市医師会)で札幌市医師会同士の対戦となり、樋口先生が昨年同様優勝(5連覇)(通算11度目)されました。(筆者も本戦に参加させていただいており、1勝もできない年もありましたが、今年は4戦中2勝できました)。

本因坊戦はハンディ戦ですが、従来どおり変則リーグ4回戦方式でした。Aクラス優勝は青木伸5段(札幌市医師会)、準優勝は板倉一正5段



前夜祭風景



大会風景

(札幌市医師会)でした。Bクラスは優勝竹内實2段(北広島医師会)、準優勝は中川東4段(札幌市医師会)でした。

入賞された先生方おめでとございました。また惜しくも入賞を逃した先生方は来年の奮起再戦をご期待申し上げます。また今回ご都合で参加できなかった戦士の先生方には、来年の多数のご参加をお待ちしております。

懇親会は、熱戦が比較的早く終わりましたので、午後3時半頃より始まりました。表彰式では三宅会長より「名人戦優勝の樋口先生はあまり強いので何とかならないのか」との上村地方棋士の意見も話されていましたが、来年もまた優勝を目指して頑張ってくださいとの話になりました。また例年の如くラッキー賞も10名に配られました。

(筆者もいただき、ありがとうございました)。楽しみにしていた名人戦優勝決定戦の大盤解説では、両先生による決戦の再現があり、上村地方棋士より「生きている石で、更に石を取りに行くのは如何か」などの指導がありました。(陰の声：石を取るの面白くてネ)。終了後にはコップを片手に、また対局を楽しんでいる先生もおりました。

最後になりましたが、北海道医師会、札幌市医師会、メディコ北海道より多額の助成金をいただきましたことを感謝申し上げ、また、土曜日、日曜日の休日にもかかわらずお世話いただいた北海道医師会事務局の方々に、連盟会員ともに厚く御礼申し上げます。

全道医家囲碁大会 名人戦優勝記

札幌市医師会

樋口 晶文



去る平成17年10月30日、恒例の医家囲碁大会が行われ、名人戦に勝利することができて喜んでおります。決勝戦で高橋7段と久しぶりに対戦して何とか幸運しました。今年は久しぶりに棋譜を取りましたので僭越ですが自戦記として拙い感想を書かせていただきます。高橋7段は北海道の医師で初めての7段で、その強腕はつとに有名です。多くの実績を残されています。最強の相手として気合を入れて相対しました。

第1譜 (1-50)

黒3の目はずしに白8に入ったのは作戦ですが、黒9のハサミから急戦が始まり最後まで激戦が続きました。互いに中央を目指して石が発展しています。

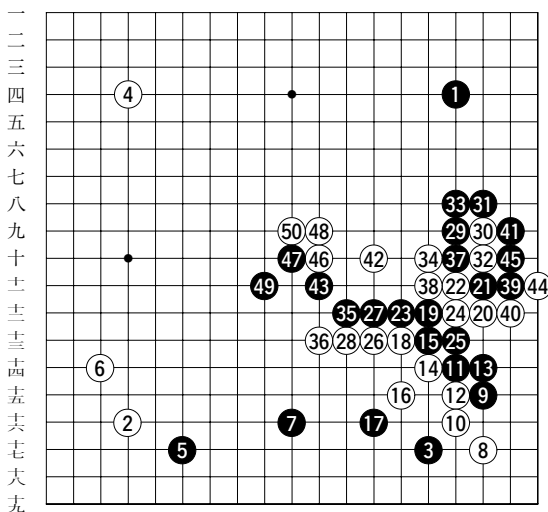
白20は形のノゾキ、黒23は24に切った方が良かったと思います。黒29にハサマれて早くも勝負ど

ころです。白30、32とツケ引いたのは危険であった。黒37は逸機である。大きく白を封鎖して、白を生かせれば良かったと思います。黒41と2目取ったのが白42に一間に飛ばれて白は楽になった。

第1譜 1-50 樋口6段(白)対高橋7段(黒)

黒6目半コミ出し

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



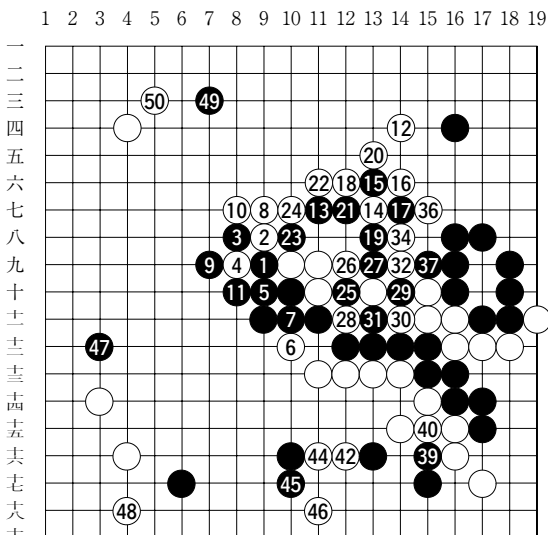
第2譜 (51-100)

黒3は勢いであったが、白4から10になり中央に厚みが出来て戦えると思った。白12とカッテ、先に希望を持った。黒13のノゾキから第2回戦である。黒15、17とキリチガッテ強腕を発揮す

る。黒23のキリと25、29のワリコミと秘術を尽くす。白36と先に抜いてから、結局黒37の劫になった。黒43とツギ、白は下辺へ42、44とフリカワッタ。上辺で先にポン抜いているので白に不満はない。地合は有利である。

第2譜 1-50 (通算51~100)

- 33(12-+) 35(14-+) 38(13-+)
- 41(14-+) 43(13-+ツグ)

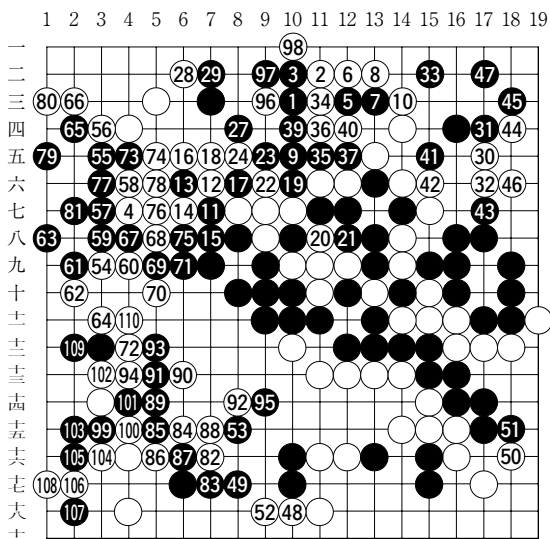


第3譜 (101-210)

白の厚みの中に黒1と頑張るもウスイ。黒11から19まで切断するも白22と逃がっている。白28と上辺をコスミ、黒の死活が問題になる。激戦が続いたが、結局白96から98と大石が死んで決した。時間がなく正確に読めなかったが、幸運に恵まれ

第3譜 1-110 (通算101~210) 白中押勝

- 25(10-ハトル) 26(8-六ツギ)
- 38(13-六ツグ)



た。高橋7段の実力を実感した。

今回も、いつも暖かい道医師会皆様のご協力をいただき、楽しい日を過ごせたことはありがたい限りである。更に精進して勉強いたします。

三宅会長、若浜副会長、南田常任幹事をはじめとする役員の方々、上村先生にはいつもながら多くのお世話になり、誠にありがとうございました。また、道医師会事務局の皆様の暖かいご支援には心より感謝いたします。ありがとうございました。

本因坊戦Aクラス優勝記
～夢のような話～

札幌市医師会

青木 伸



囲碁は小学生の時に父親から指導を受け時々遊びながら打っていました。中学生時代は同級生にも数人打てる(私と同じでルールを少々知ってい

る程度の意味)友人がおり、時たま打っていました。高校時代はNHKの囲碁番組を楽しみにして毎週欠かさずに見ていました。大学時代は一時期北大囲碁クラブに所属していましたが長続きせず1、2年でやめてしまいました。学生の6年間は同級生に今回の名人戦でまたも優勝した樋口君がいて昼休みには6子で打ってもらいましたが全然歯が立たず、ころころと負かされていました。医師になってからは医局の先輩同輩と打っていましたがあの当時はマージャンが盛んでした。最近インターネットで全国の打ち手と対戦でき対戦相手には不自由していません。

今回の大会には初めて出場させてもらい、その

うえ幸運にも優勝をさせてもらい大感激でした。その後静かに一人で優勝の感激をかみしめていけば謙虚でいいのですが、優勝の楯を診察室の一番よく見えるところへ飾っておき、それに来客が気付いたらもうこっちのもので、蕩々と優勝の弁を語り始める私でした。最近では来客も一回りして、楯のことも話題にならなくなり、優勝楯は別の棚に引越して寂しく鎮座しています。

本因坊戦Bクラスに 優勝して

北広島医師会

竹内 實



高校1年から始めた囲碁、もう50年を超えたことになる。55才の時幌南ロータリークラブの碁会で優勝し、その際、日本棋院の2段の位をいただいた。箱に入った免許証は医師免許証より立派でしかもはるかに高価であった。

道医の碁会では幾度かもう一步の所まで戦ったが持ち時間切れや遅刻による不戦敗等でいつも優勝を逃して来た。そのため2段のままでの出場。今回は慎重に対戦し全勝優勝を果たした。次回連続優勝を目指したいが若手の先生方の参加を是非望むものである。

第32回大会成績表（敬称略）

【名人戦】

順位	氏名	得点
優勝	樋口 晶文	34
準優勝	高橋 成夫	27
第1位	南田 英俊	26
第2位	岡村 廉晴	25
第3位	富樫 久夫	19

【本因坊戦Aクラス】

順位	氏名	得点
優勝	青木 伸	34
準優勝	板倉 一正	27
第1位	山家 研司	25
第2位	鬼塚 誠	24
第3位	岡崎 博	19

【本因坊戦Bクラス】

順位	氏名	得点
優勝	竹内 實	34
準優勝	中川 束	26
第1位	三宅 直樹	18
第2位	古市 武正	17
第3位	仲 俊之	17

お知らせ

事務局の年末年始休みについて

北海道医師会ならびに北海道医師国民健康保険組合の事務局は、平成17年12月29日(木)から平成18年1月3日(火)までの期間、休業いたします。